

CSUF における FD プログラムに参加して

生命先端工学専攻ケミカルバイオロジー領域 水上 進

平成 22 年 9 月 20 日から二週間の日程で、米国カリフォルニア州オレンジカウンティにあるカリフォルニア州立大学フルトン校 (CSUF) にて、ファカルティディベロプメント (FD) プログラムに参加した。同行したのは、工学研究科生命先端工学専攻の先生方 4 名と私の計 5 名であった。宿泊先のホテルも非常に快適で、海外滞在中のトラブル等が一切起こらなかったのは、CSUF 側の充実した受入れ体制のお陰と言えるだろう。

プログラムは約 2 週間で、到着日と修了式のある最終日を除く全ての平日に授業が組まれていた。一連の授業を通して「どうすれば学生の興味を引き付けて、かつ講義内容を理解させられるか」という点を、異なるアプローチで体系的に教わった。感銘を受けた点は、複数の講師によるそれらの講義そのものが、講義で学んだインタラクティブな方法論を実践していたことであった。理論と実践を 1 つの授業で同時に学べるように工夫されていたことは、非常に効果的であった。

FD のクラスの他に、CSUF の Chemistry と Biology の教員による学部・大学院のクラスを見学する機会が設けられていた。こちらは、講師によって異なるアプローチがなされていたが、ほぼ全ての授業において学生との間に非常に多くの対話があり、インタラクティブな講義が実践できていた。インタラクティブな講義に関しては、早速帰国直後に始まった学部 1 年生後期の講義 (受講人数約 80 人) で実践してみた。中には授業開始直後に睡眠に入る学生もあり、なかなか教わった通りにはいかないが、多少の手応えは感じている。

講義を受講した側として最も面白いと思ったのは、先にプログラムで派遣された先生方も報告されている「Clicker」であった。これは、テレビのリモコンのような発信機を受講生一人一人が持ち、Power Point 上に出した問題の選択肢に対応するボタンを押すと、各解答を何人が選択したのかが画面に表示されるという教育支援機器である。発信機の ID を解析することで、講師の側からは誰がどの選択肢を選んだかも分かるということで、インタラクティブな講義には非常に有効だと感じた。しかしながら、アメリカの学生達は、お金を出して発信機 (\$ 20 程度とのこと) を買うのを嫌がる場合もあるようで、実際に見学した中では Clicker を使用しているクラスは無かった。日本でも幾つかの大学で Clicker を導入している例もあるようなので、それらの大学での活用事例について知りたく思う。また、携帯電話を発信機の代わりに使う技術も開発されているようで、これは非常に興味深い。

FD プログラムのもう一つの目的は、英語によるプレゼンテーションスキルの改善であった。一連の講義を受けた後、その成果発表としてメンターが担当している修士 1 年生の生物学のクラス (2 コマ : 90 分 × 2) で、授業と自身の研究のプレゼンテーションを行った。授業終了後に学生とメンターの先生から有り難い意見を頂き、自分のプレゼンスキル

を客観的に評価する良い機会となった。

全体を通して、今回のプログラムへの参加は極めて有意義だった。二週間という期間は若干長いようにも思うが、そのくらいの余裕がないと消化不良を起こす可能性も否めない。今後は、貴重な体験をさせて頂いた者の責務として、国際化が進む大学教育の改善に貢献できたらと考えている。最後に、プログラムの責任者の工学研究科生命先端工学専攻・金谷茂則教授、事務の松本玲子氏、CSUFの先生方、メンターのMath Cuajungco 助教授、並びにプログラム計画から滞在中の様々な世話を下さった Melem Sharpe 氏, Yuki Ueda 氏を始めとする CSUF University Extended Education セクションの方々に深く感謝致します。



お世話になったメンターの Prof. Cuajungco (右)